

飛鳥資料館春期特別展のご紹介

「キトラ古墳壁画四神玄武」

平成19年4月20日(金)～6月24日(日)

大盛況だった昨年のキトラ古墳壁画「白虎」の特別公開に引き続き、飛鳥資料館では今年度も、関係諸機関のご協力のもと、5月11日(金)～27日(日)までの17日間の期間限定で「玄武」の特別公開を致します。また、この公開にあわせて、春期特別展では、中国における玄武の出現からキトラ古墳に至るまでの道のりを紹介致します。

玄武の出現は前漢に遡ります。王莽新から後漢にかけては中国各地にひろがりを見せ、南北朝になると、南朝の影響をうけつつ、北朝では、さまざまな図案の玄武が展開します。また、高句麗や百済など朝鮮半島でも、玄武を含む四神が現れます。つづく、隋唐時代では、その玄武の図案の様式化が進むこととなります。

日本の玄武は、古墳時代には断片的に伝わったとみられますが、その本格的な出現は、今回のキトラ古墳壁画の玄武を始めとします。

こうした玄武について、本特別展では、中国漢

長安城出土の瓦当、山東省東安漢里の画像石拓本、北魏末の爾朱紹の墓誌蓋)、高句麗・百済古墳壁画模写や写真パネル)、日本 福岡県竹原古墳壁画模写、奈良県藤ノ木古墳出土金銅製馬具レプリカ、高松塚古墳壁画模写)を中心に展示し、玄武の源流を辿りたいと考えています。

玄武は、その発見によりキトラ古墳に壁画の存在を決定づけた、いわばキトラ古墳の象徴です。本展覧会では、こうした象徴たる玄武の神秘的な姿の謎について、ひろくご紹介したいと考えています。(飛鳥資料館 清永 洋平)



キトラ古墳壁画 玄武